

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣特別支援学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月18日(金) 書面開催による意見回収日
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会長	山 真弓	大垣公共職業安定所 総括職業指導官
副会長	山口 敏文	大垣水都ライオンズクラブ 青少年育成委員長
委員	野村 哲夫	上笠自治会長
	石丸 明美	大垣市くすのき苑 係長
	山田 晃嗣	情報科学芸術大学院大学 准教授
	箕浦 智之	大垣共立銀行 江並支店支店長
	伊藤 三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会 会長
	後藤 悦子	障がい者相談支援事業所 ゆう 所長
	澤井 恵美子	大垣特別支援学校PTA副会長
学校側	松原 勝己	校長
	後藤 睦子	教頭
	福島 洋之	教頭
	桐山 泉	事務部長
	佐藤 鈴子	小学部主事
	原 和代	中学部主事
	寺井 聡	高等部主事
	橋浦 夏子	教務主任

5 会議の概要

(1) 本年度の取組における成果と課題について

【全体として】

- 意見1：コロナ禍で制約がある中、各部において新しい取組が数多くあった。新しいことへ挑戦する姿勢は素晴らしい。
- 意見2：生活単元学習の授業で行ったことが、実際に家庭でも役に立つことがあり、とてもうれしい経験をした。
- 意見3：「できないではなく、できるように」工夫をされて行事等を実施され、子どもたちが体験できたことで楽しさや学びを積み重ねることができたのではないかと。
- 意見4：アンケートからの課題に真摯に向き合い、具体的な方策を挙げられて改善を図っている姿勢が、児童生徒・保護者との信頼につながると考える。

【小学部】

- 意見1：コロナ禍の中で、ICTを活用しながら、学習や交流等を工夫して進められていて前向きな姿勢が伺える。
- 意見2：小学部の時から「働いて生きる日のために」の冊子を家庭に伝えられていることに志の高さを感じた。

- 意見3：学習や活動中の事故等、起きてしまったことは残念である。周知と情報共有により安全の維持を図るとともに、定期的な研修も必要ではないかと考える。
- 意見4：先生方の創意工夫で代わりになる活動を提供されており、家庭生活でもとても役に立つことが多く、有り難かった。
学校に出向く機会はなかったが、不安なことを話すと、教職員が親身になって対応してくれて、有り難く思った。
- 意見5：タブレットを活用した授業や他の小学校とのオンラインでつないだ学校間交流などが普通になりつつあるのはとてもよいことだと感じた。
- 意見6：校内での事故に対して、全職員で何が危険か、事故に結びつくかについて共通認識をもつことが必要ではないか。

【中学部】

- 意見1：社会で生きていく力を育てるため、体験的な活動を実施していくことはとても評価できる。
- 意見2：学びの場を校外に広げていることは、評価できる。子どもたちの思っていることを社会に発信して行ってほしい。
- 意見3：コロナ禍で、授業参観等がなくなり、学校の様子を伝える方法等、いろいろ工夫が必要かと考える。
- 意見4：中学部三年間を見通した進路学習に力を入れられており、将来に対しての安心感を与えている。

【高等部】

- 意見1：感染症対策による制限がある中でも、学びの場を校外に広げたことは素晴らしい。
- 意見2：消費者教育が始まったばかりだが、社会の変化にどう対応されるのか、生徒第一に考える対応を期待する。
- 意見3：働くことについての指導が明確であり、働く力の付け方もユニークであると感じた。
- 意見4：具体的なキャリア教育で、一人一人の社会的職業的自立に向け、必要な基盤となる力や態度を育てるような取組をされている。
- 意見5：進路状況を見てみると、新しく開拓された企業も多いとのことで、職員の皆さんの力が大きいと感じた。

(2) 学校評価アンケートについて

- 意見1：アンケート結果から来年度への課題が整理されていた。高等部の進路にかかわる部分で協力したい。
- 意見2：保護者からのアンケートは、教育方針などでは高い評価を受けていることから、保護者の方からの信頼は高いものと推測できる。
高等部の生徒のアンケート回答から先生方と生徒はよい関係が築けていると感じる。
保護者に対するアンケート評価（5段階）と高等部生徒のアンケート評価（3段階）の段階が異なっていたことが気になる。可能であれば、高等部生徒も5段階にしたらどうか。
- 意見3：概ねABで80%以上の評価が出ており、肯定的に捉えられていると考える。E評価（わからない）のパーセンテージが高い項目については、発信を工夫していただく必要があるのではと考える。
- 意見4：保護者に向けて発信の工夫が望まれる。コロナ禍だからこそその発信を期待する。
- 意見5：保護者の不安や関心が高いのは進路指導に関することである印象を受けた。進路だよりも卒業後のことも載せてほしい。（就職後の通勤方法、昼食、所生の方の感想等）

意見6：生徒・保護者から細やかなアンケートを取り、結果から多くの気づきを得ることができた。小学部の保護者からは、これから続く学校生活の要望が多く挙げられ、高等部では、将来に対しての不安を感じていることが分かった。重度の生徒の保護者にとっては、きめ細やかな支援を受け止めることのできないほどの大きな不安を抱えている。在校時、生徒が地域社会で実習に励み、将来に対する夢の実現のために、支援を重ねていく必要があることを強く感じた。

意見7：コロナのため、いろいろな行事等が中止になって、保護者に校内の様子が伝わりにくかった点があったのではないかと。学校の取組をきめ細かく発信していくことが大事だと考える。

意見8：学校側の学習や指導がうまく保護者に伝わっていないことが見てとれる。具体的な方法を考え、実践していくことが必要ではないかと。

学校、職員、保護者が一体となって生徒を育ててほしい。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会は、まん延防止等重点措置が適用されたため、対面開催は行わず、書面開催とした。全委員から、回答を得ることができた。
- ・各部の「今年度の取組における成果と課題」について、コロナ禍の中でも、職員が工夫を凝らして、行事や校外での体験活動を行っていることに対して共感を得られたと考える。
- ・「学校評価アンケート」の結果より、保護者への発信の仕方についての課題が明らかになった。学校の取組をいかにして発信するかを具体的に検討し、来年度に生かしていきたい。